

◇新春特集 講演抄〈1〉

笑顔になるだけで
体調は良くなります

晋山式

広宣流布の誓い

日達上人の御遷化に際しまして大勢の方に御弔問頂きました事、まずお礼を申し上げます。ありがとうございます。これから全力を上げて日達上人のご意志を継ぎ、三徳の実行、広宣流布に励んでいきたいと思ひます。変わらぬご支援をお願い致します。

杉山先生の教え……人を喜ばせる

杉山先生は「周りの人を喜ばせるように」ということをいつもおっしゃっておられました。どんな些細なことでも「人を喜ばせよう」と思つて普段から行動することが大切だと思ひます。

杉山先生の教え……善神に好かれる道

杉山先生は「幸せになりたければ、そして、人生で成功したければ、諸

仏善神に守護されなければいけない。悪神に憑りつかれたらどうにもならない。悪神に憑りつかれると悪いことが楽しくなり、どんどん深みにはまってしまふ。常に徳を積み、罪障消滅をして、諸仏善神に好かれるような行ないをしなければいけない」と言われました。

村上先生の教え……堪忍

村上先生は困難な出来事に出会われた時、「これは諸天のお試しだ。諸天が私を試しておられるのだ。これを使い越えて私は一つ上の悟りに行かなければ」と堪忍を誓われ、自ら身をもって範を示されました。

命ある限り……御開山上人の菩薩行

今から51年前、御開山上人は昭和三十七年六月七日に御遷化されました。それまで三度程脳出血で倒れました。お庫裡様や周りの方が「大事な

お体からだですから、少しは体からだを労いたわって休やすんで下ください」といくら言いわれても、その都度つど「休やすんでいては生いきている意い味みがない。徳とくを積つまなければ生いきている甲斐かいがない。私わたくしが行いくのを皆みなさん待まっていて下くださる」とおっしゃって一いっ心しんに働はたらかれました。◀精せい一いつ杯ぱい生いきて、その途上とじょうで倒たおれても本望ほんもうだ◀というお氣持きもちがあられたのだと思います。世間せけん的てきに見みれば61年ねんの生涯しょうがいは決けつして長ながくはありませんが、悔くいのない、菩薩ぼさつとしての人生じんせいを歩あゆまれたと思おもいます。

御開山上人ごかいさんしょうにんの教おしえ……子こどもの教きょう育いく

御開山上人ごかいさんしょうにんは「どんな子こどもでも教おしえれば良よくなる。だから、教きょう育いくをしなければいけない」という信しん念ねんを持もっておられました。また「人にん間げんは働はたらくことによつて喜よろこびを得えることができると。これはどんな人ひとでも同おなじだ」というお考かんえで、子こども達たちを育そだてられました。

御開山上人の教え……誉めて育てる

御開山上人は、体罰というものを戒められました。保母さんの集まりの時「言うことを聞かない子には体罰を加えた方がいいのではないか」という意見がありました。が、御開山上人は「絶対に体罰はいけません。今まで体罰で良くなった子は一人もいない。とにかく褒めなさい。褒めることがなかったら何かをさせて褒めればいい」と言われたのです。

感謝

御開山上人の時代、法音寺の財務状況は良くありませんでした。法音寺がそうなら、大学も昭徳会も大変でしたから、御開山上人のなされるお仕事に対して、当時の信者さんが心からのご支援を下さったのです。それでも御開山上人は生涯お金に苦労をされました。しかしそれ以上に大きな徳を残されました。そのおかげで今では法音寺も昭徳会も日本福祉大学も大

いなる発展を遂げています。もちろん、協力して下さった檀信徒の皆さんのお力によるところ大である、心から感謝をしております。

先師のユーモア

日達上人は明るい方でした。普通の人ではつぶされてしまいそうな厄介な事も、深刻には受け止めない方でした。「まあ何とかなるぞ」というところがあったのです。これは御開山上人から引き継がれた性格だと思ひます。

御開山上人は、生の松原のハンセン病の施設でお金も着る物も食べる物も何もなくった時でも「何もないけどしょうがないから、歌でも歌いましょうか」と言われたそうです。こういう発想はなかなか浮かばないものです。

「法師」の務め

人はそれぞれこの世に、いろいろな課題を持って生まれてくると思うのですが、生まれつきハンディキャップを持っていながら健常者以上に活躍をされている方がおられます。そういう方のお話を見たり聞いたりする中で思ったのが、法華經の法師品に説かれることです。

「自ら清淨の業報を捨てて……衆生を愍むが故に惡世に生れて広く此の經を演ぶる」

本当はそんな不自由な体でこの世に生まれて来る必要はないのに、我々に人生の本当の意味を知らしめるために、わざわざそういう体になって生まれていらしたに違いありません。

この世で為すべき事

人間はこの世に何をしに来たのでしょうか。いろいろお考えになられると

おも
思いますが、正しい^{ただ}答えは「魂^{たましい}を磨^{みが}く」ためです。この世^よに生^{せい}を受^うけた時^{とき}
より魂^{たましい}を磨^{みが}いて次^{つぎ}の世^よに行^いかなければなりません。

魂^{たましい}を磨^{みが}く道^{みち}

素朴^{そぼく}に、世^よのため人^{ひと}のために見返^{みかえ}りを求^{もと}めず何^{なに}かをすることが、魂^{たましい}を磨^{みが}
く一番^{ばん}の方法^{ほうほう}です。

この世^よに生^うまれた意義^{いぎ}

ずいぶん前^{まえ}のことですが、名古屋^{なごや}地区^{ちく}の忘年会^{ぼうねんかい}の席^{せき}で、亡^なくなられた赤^{あか}
塚^{つか}さんから「正修上人^{しょうしゅうしやうにん}、あんたはこの世^よに何^{なに}しに来^きやあ^あた（来^こられた）」
と聞^きかれたことがあります。その時^{とき}は面食^{めんく}らいまして、考^{かん}え込^こんでいまし
たら赤塚^{あかつか}さんが「私^{わたくし}は丁稚奉公^{ていぢほうこう}で名古屋^{なごや}に來^きた14歳^{さい}の時^{とき}にこの質問^{しつもん}を杉山^{すぎやま}
先生^{せんせい}にされ^せた。私^{わたくし}は『働^{はたら}きに來^きました』と答^{こた}えた。すると『そうか。よろ

しい』とお褒めの言葉を頂いた」ということでした。「14歳で、なんてすばらしい答えを言われたのだ」と感心しました。

仏性

人間には「仏性」があります。仏性というものは、してもらいよりしてあげる方が喜べるようにできています。よく「仏性の花が開く」とか「仏性を開発する」と言いますが、人の為に何かをするという菩薩行をしていくと、仏性の花が開いて余計に人の為に何かをしたくなり、そういうことをするとどんどんうれしくなるという性質が、人間にはあるのです。仏性まは人間をそのように作られたのです。

日常に生かす信心

仏像を拝むという事は「仏様のようになろう」と努力をする誓い

を立てる事です。お経を読む事は「その中に書いてある事を日常に実行します」と誓う事です。ただ読むだけでなく、よく中身を知って、それを日常に生かさなければ意味がありません。

意味のない「方位・方角」

世の中には、名前とか方位・方角にこだわる人がいます。そういったことを法音寺の先師はどなたも否定してみえます。名前だけ変えても何の意味もないし、方位・方角にこだわっても無意味だからです。

孝は百行の基

昔から「孝は百行の基。一孝立ちて万全これに従う」と言われてきました。百行の基とは、さまざまな善い行ないの基礎になるということで、孝心なくして善い行ないはないということです。

「あの人は親不孝^{おやふこう}だけど、ものすごく善根功徳^{ぜんこんくどく}を積^つんでいる」ということはあり得^えません。

徳^{とく}の人^{ひと}

親孝行^{おやこうこう}な人は自然^{しぜん}にいろいろな善^よいことが出来^{でき}て、徳^{とく}が集^{あつ}まります。

親孝行^{おやこうこう}

「親^{おや}から頂^{いただ}いた体^{からだ}だから」と健康^{けんこう}に気^きを付^つけるのも親孝行^{おやこうこう}でありますし、日々徳^{とく}を積^つもうと思^{おも}って生活^{せいかつ}をすることは一番^{ばん}の親孝行^{おやこうこう}であります。

命^{いのち}を大切^{たいせつ}に

うちの子^こどもが小学生^{しょうがくせい}の時^{とき}のことです。近^{ちか}くの興正寺^{こうしやうじ}に蟬取^{せみと}りに行^いきました。するとある家族^{かぞく}が、蟬^{せみ}を取るのですが、子^こどもに何^{なに}かを言^いってすぐ

に逃がしてしまいました。何を言っているのかなと思い、近づいて聞いてみると「蟬の命は短いからな、もう離してやっていいだろ」とお父さんが言うていました。そして、取っては逃がし、取っては逃がしてしまいました。これは良いことだと思い、私も真似をさせて頂きました。

家族は仲良く

家族との仲が悪いことは、人生の最後が一番後悔することです。わだかまりを無くして家族は仲良くしましょう。後悔をしなくていいように、いつ「死」が来ても悔いのないように。

ほめ言葉の力

駅など公共のトイレに行くと「いつもキレイに使って頂きありがとうございます」と書かれた所があります。これは九州の博多駅で始まったそう

です。最初、とにかくトイレが汚かったので何とかキレイに使ってもらおうと「あなたのマナーが問われています」としたところ、もっと汚くなっ
てしまいました。次に「落書きを見つけたら警察に通報します」と書いた
ら、さらに汚くなってしまいました。そこで、逆に「褒めてみよう」と始
めたのが「いつもキレイに使って頂きありがとうございます」でした。こ
の一言でトイレが見る見るキレイになってゆきました。言葉を変えただけ
で、キレイに使ってもらえるようになったのです。

褒められると……

人は褒められると気分が良くなり、嬉しくなつて特別な力を発揮するよ
うになるものです。これは老若男女を問いません。

仕事をする心構え

人間は、働いて周りの人を喜ばしていると、自分も喜べてくるものです。「お金のため」とか、「生活のためしようにないから」ではいけません。周りの人に喜んでもらおう、縁ある人に喜んでもらおうと思って一生懸命働いていると知らないうちに皆が幸せになっています。

笑顔の力

人に笑顔になってもらう良い方法があります。「褒める」事です。褒められると誰でも笑顔になります。よくお話しますが、笑顔になるだけで人間の体調は良くなるものです。

いっしょの連鎖

仕事でも家事でも、誰かに喜んでもらうためにやると自分も楽しいし、

そうするともっと喜んでもらえるという、いい相乗効果が現われてきます。

優しく接する

日常をふり返ってみて後悔しなくていいように、人には親切に、優しく接してまいりましょう。

思い直して喜ぶ

一見「ついてない」と思われる出来事が起こっても、「ついてない」と言葉に出したりしないで、無理をしても「ついてる」と言う方が「運が向いてくる」に違いありません。雨が降って一張羅のスーツが濡れても「ついてるついてる。鳥にフンをかけられなくてよかった」。そして、もし鳥のフンだったら「石でなくてよかった」と言うぐらいで良いのです。

明るく生きる

明るさや笑顔は「ツキ」を呼ぶ、とても大切な要素です。

「嫉妬」の招くこと

他人が成功してうまくいっている時など、嫉妬心が起きやすいものです。「うらやましいな」と思っているうちはいいのですが、そのうち「今度はうまくいかなければいいのに」と思ったりするものです。そういう、誰かが成功してうまくやっている時「良かったね」と心から言えるかどうか、これが人生の一つの課題と言えます。その時、「今度は失敗する」といいのにとか、「いつか病気でもすればいいのに」ということを思うと、これは人生の課題をうまくクリアしていない、ということになります。

失敗を招かないために

相手に対して、心から素直に「すばらしいですね」と言うことができる
と、自分もそういう状況になりやすい精神状態になりますが、逆に、人の
成功を妬んで「今度は失敗すればいいのに」と思ったりすると、自分も失
敗しやすい状況を作ることになります。

「死」を意識する

若い頃は誰も「死」についてあまり考えません。自分の命は永遠に続く
ようにさえ感じるものです。しかし、年を重ねるに従ってだんだん「死」
を身近に感じるようになってきます。また、身内を亡くしたりすると意識
せずにはおられません。私は「死」を意識することは、より良く生きるた
め大変必要なことだと思います。

明^{あか}るい面^{めん}から見る^み

ある方^{かた}が二十代^{だいい}の時に悪性^{あくせい}リンパ腫^{しゅ}になり、お医者^{いしや}さんに「治^{なお}る確率^{かくりつ}はどれくらいですか」と聞^きいたところ「五分五分^{ぶぶんぶぶん}」と言^いわれたそうです。五分五分^{ぶぶんぶぶん}と言^いわれれば、普通^{ふつう}の人^{ひと}はかなり不安^{ふあん}になると思^{おも}いますが、その方^{かた}は「五十%も助^{たす}かる確率^{かくりつ}があるのか」と喜^{よろこ}ばれ、抗癌^{こうがん}剤^{ざい}治療^{ちりやう}を受けながら体力^{たいりよく}を落^おとさないように、病院^{びやういん}の屋上^{おくじやう}で腕立^{うでた}て伏^ふせなどをされていたそうです。今^{いま}、その方^{かた}は五十九歳^{さいじゅうきゅうさい}です。病氣^{びやうき}を克服^{こくふく}され、大變^{たいへん}お元氣^{げんき}に活躍^{かつやく}されていますが、「五分五分^{ぶぶんぶぶん}」と言^いわれた時^{とき}「五分もあるのか」と思^{おも}える、この考^{かんが}え方^{かた}が大切^{たいせつ}だと思^{おも}います。物事^{ものごと}はやはり、明^{あか}るい面^{めん}から見た^みほうがいいのです。

顯修院日達上人第一周忌御報恩謝徳

報恩と誓願





顕修院日達上人第一周忌御報恩法要奉行



「親孝行したい時には親はなし」と申します。〃本当にそうだなあ〃と寂しさの中に過ごした一年でございますが、杉山先生の御法話の『誠の孝道』を読み、感ずるところがございました。杉山先生は次のようにお話になっておられます。

〃親が亡くなったら孝行出来ないと言っているのは、亡き親に対する孝養の方法を知らないからだ。親孝行には上品・中品・下品の三種の孝がある。父母の喜ぶ衣食を勧めることは下品で、まだまだ大いなる孝行ではない。父母の仰せによく従い、安心させるのを中品と言うが、まだまだ最上の孝行とは言えない。身に法華経を持ち、世の中の人々のために大いに尽くして、その功德を亡き父母に回向する。生きている親には菩提心を起こさしめる。それが上品、つまり、最上の孝行である〃

これを読み、思いました。日達上人こそ本当の親孝行をされた方だったのだ、と。御開山上人の時代から比べて、法音寺も昭徳会も日本福祉大学も、何倍、何十倍と、規模も内容も充実したものへと発展させられました。本当に、世のため人のため、全霊を尽くされたと申せましょう。この功德がすべて三先師の御身にあつまって、私共を守護して下さっているのだと思います。

先師のご事績に比べれば恩山の一塵、徳海の一滴にも及ばないと思いますが、この度、日達上人のみ教えをまとめて『大白牛車 8・一日一言』を



発行させて頂きました。御講演抄と御教化抄（毎月教示された「今月の指針」）を合わせて366日の修養の指針が記されています。「今日一日の信仰」を修めるのに最適の書と言えます。日々の座右の銘として頂けたらと思います。

又、本書に合わせて「障がい者アート・藍染めブックカバー」を制作致しました。昭徳会施設の障がいをお持ちの方のデザインを、杉山先生時代からのご信徒、赤塚さんの工房で染め上げて頂きました。この因縁を、日達上人もお喜び下さるに違いありません。

まだまだ未熟な私ではありますが、少しでも日達上人に倣って皆様のお役に立てるよう精進して参る所存でございますので、今後共よろしくお願い申し上げます。

平成25年12月14日、山首上人は顕修院日達上人第一周忌報恩法要を終えて、参列の方々にご挨拶された。

法音寺は文字通り新たなスタートを切った。師への真の孝道を誓われた山首上人に続き、我等信徒も一丸となって精進する誓いを新たにしたいものである。

この程、日達上人のお墓が新たに建立されるにあたって、従来の先師廟が一新された。

この日、法要終了後、大お庫裡様（日達上人令夫人）はじめご関係各位が参拝、安立大法尼、宗玄大徳、御開山上人、日達上人の墓碑が爽やかな青空の下、涼やかに並ぶお姿に思いを新たにされ、懐しく語り合われるお姿が見られた。

本山に団参され、御廟に参拝される檀信徒の方々も、三先師、日達上人への報恩の思いをより強くされるに違いない。

※赤塚さん〳〵今月号の28頁をご参照下さい。